

季刊『寺楽』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）  
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。  
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに  
広くお読みいただければ幸いです。

# 寺楽

No.21

平成27年6月1日発行



本覺山 妙壽寺 (法華宗 (本門流))

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1  
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427  
ホームページ http://myojyuj.or.jp

## 無縁社会と寺縁 その18

うらかな暖春の日、映画「おみおくりの作法」(原題「リステイル・ライフ」)を観ました。英国ロンドンの民生係ジョン・メイは、一人きりで亡くなった人を弔う仕事を几帳面に、誠実に執行していきます。その生活ぶりも質素で真面目そのものです。彼が向き合う亡き人、その人生を溯り、故人を知る人々を訪ね、最後にたった一人でもその宗教で厳かに、その人生を送ります。ジョン・メイの人の命に対する畏敬と尊厳が描かれています。しかし、近隣に住みながら、見知らぬ人の死を調べる途上、人員削減で解雇の通告を受けます。却って彼は、最後となる故人の人生を今まで以上に丁寧に拾い集めていく。そして、思いもよらぬ出来事と心の高ぶる最後を迎えます。そのラストシーンに、涙が溢れました。鑑賞後、黒澤明監督の「生きる」と滝田洋二郎監督の「おくりびと」を思い返しました。製作者の思いは、孤独や死、人と人とのつながりの中には普遍的で大切な営みがあるとすること。そして人生は、死を以て決して終わらないというメッセージが伝わりました。

鴉 鶺鴒



朝顔図 酒井抱一筆(当山所蔵)  
本年は琳派400年となります

### 3月11日 東日本大震災追悼慰霊・復興祈願法要一福島県いわき市久之浜一



### 3月10日 東京大空襲慰霊行脚・法要一東京都慰霊堂(両国)一



## 寺日記

てらにっき

- 2月28日 本化ネットワーク研究会  
テーマ・勝劣派の成立と日陣・日隆・日真三師の教学についてー本述論を中心として、講師・布施義高師(法華宗陣門流法務部長)。
- 3月4日 第91回宗教法制研究会  
テーマ・宗教法人と個人情報管理 講師・弁護士 佐藤寛之先生(桜川綜合法律事務所)
- 3月5日 法華宗興隆学林卒業式  
これに先立ち大本山本能寺貫首菅原日象親下御親修にて学林御宝前四天王入仏法要奉修。
- 3月8日 蓮の泥の入れ替え  
当山檀家吉野家・河村家ご奉仕により蓮の泥の入替作業が行われました。昨年は電(ひょう)被害により花が咲かず今年は期待されます。
- 3月12日 幸龍寺歴代上人法要  
烏山寺町幸龍寺にて先々代行道院日輝聖人第五十回忌、先代天晴院日明聖人第三回忌が奉修され、ホテルオークラにて懇話会が催されました。
- 3月13日 妙高寺母堂葬儀  
烏山仏教会会長吉橋勝寛上人ご母堂初枝刀自葬儀が肅やかに執り行われました。
- 3月21日 好川榮一氏ご逝去  
当山総代好川榮一氏が九十五歳にてご逝去されました。総代として、また本堂再建時の会計監査としてお力添えを頂きました。厳徳院智蔵日榮居士。心よりご冥福をお祈り致します。
- 3月21日 彼岸会中日合同法要  
暑さ寒さも彼岸までと言われる中、400余名の檀信徒の方々にお参り頂きました。
- 4月3日 烏山花まつり  
桜花爛漫の中、妙高寺より妙祐寺まで寺町通りを40余名の稚児練供養が行われました。
- 4月5・6日 駿河路・大本山光長寺団参旅行  
初日小雨の中、三保の松原、久能山東照宮

## KUGETSUMA & SAN FRANCISCO 鷓沼・桑港から

● 4月23日 報恩法要 白い藤の咲く中、恒例の清明庵報恩法要が奉修され、10余名にて唱題修行が行われました。

● 5月8日 堀田家葬儀 12時よりご宝前を荘厳お飾りし、御遺骨をご安置して堀田家ご母堂送葬法要が奉修されました。

● 5月9日 虫明家法事 11時より親族が集まり虫明家ご尊父祥月命日忌が営まれ、ありし日の故人をお偲びしました。

● 5月9日 表千家茶事 9時半より階下茶室において四方宗順先生ご指導の下、当上人を正客として茶事が行われました。

● 午後2時よりミルバレー公民館にて、石田妙子氏(石田日天長女)夫・スタンレー・アブラムソン氏(4月7日逝去、法華院智樂日湛居士、82歳)の葬儀が音楽葬にて執り行われ、当上人追悼誦経の後、40余名のサンフランシスココーラスソサエティメンバーの合唱等が奉納されました。

● 5月10日 花まつり法要・能公演 午後1時よりご宝前において花まつり法要(釈尊降誕会)、併せて教会にお力添え頂いた児玉智仁氏(1月16日逝去、智徳院猛利日仁居士、86歳)の追悼法要が行われました。法要後、日本より来桑の浅見慈一氏(観世流鎮仙会・当住久美夫人実弟)によるパフォーマンス(お仕舞)が奉納され、質疑応答など好評を頂きました。

## 妙壽寺 2015 夏秋スケジュール

- 7月16日 孟蘭盆会施餓鬼法要  
午後1時：法話  
午後2時：法要
- 7月上旬から15日まで、各お檀家へ担当僧侶がお盆棚経に伺います。
- 9月23日 秋の彼岸法要  
午前11時：中日合同法要 初座  
正午12時：歴代墓所参拝・正隆廟法要・動物廟法要  
午後2時：中日合同法要 第二座
- 10月 日程未定 正隆会課外活動 秋のウォーク
- 11月3日 当山御会式法要 午後2時

## 正隆会

【SHORYU-kai】

午後2時開催

## 月例講 ご案内

当山では、毎月第2土曜日の午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例では、毎回1時半より正隆廟前法要を奉修しております。

- 6月13日(土) 勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読-24-
- 7月11日(土) 講師勉強会(興隆学林教授 平島盛龍先生)
- 8月 月休講
- 9月12日(土) 勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読-25-
- 10月 未定 正隆会課外活動 秋のウォーク
- 11月14日(土) 写経会
- 12月12日(土) 一万遍唱題行  
勉強会「法華経の略要本」(大平宏龍 著) 拝読-1-



## 当住上人の 宗務院DIARY

- 3/25 ▶各布教機関との連絡協議会
- 3/26,27 ▶宗門史編纂委員会
- 3/30,5/18,5/26 ▶責任役員会
- 4/10 ▶宗祖門祖開基先師聖人奉讃会
- 4/21 ▶法華宗顧問会、法華学園二次評議会、教学基金理事会、学林後援会幹事会
- 5/19~21 ▶第六次定期宗会
- 5/27,28 ▶全国宗務所長会



- 見学、焼津ホテルアンビシア松風閣に宿泊。翌朝、一路沼津大本山光長寺到着、山門の桜満開に迎えられ塔頭南之坊休息(写真①)。午後1時よりの大法要に参拝焼香、満堂の唱題を共ににお勧め致しました。
- 4月10日 法華宗千鳥ヶ淵慰霊法要  
法華宗主催による千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要が新緑の爽やかな風の中、奉修されました。(写真②)
- 4月12日 霊松院歴代上人法要  
山梨県富士吉田市霊松院(住職中臣智恵上人)において、ご両親先代先々代・常行院日光大徳三十三回忌、常唱院日惠大徳三十三回忌が奉修されました。
- 4月13日 日蓮門下連合会常任理事會  
於・池上日蓮宗務院
- 4月15日 大僧正日照上人祥月忌  
佐々木明上人導師により、先々代大僧正日照上人、同入室慈恵院妙勝日顯善法尼、併せて先代智覚院日惠上人祥月命日忌が営まれました。
- 4月16日 淡交会関東第一地区協議会(於・明治記念館)
- 4月18日 桜を観る会(於・新宿御苑)
- 4月24日 東京ブディストクラブ研修会
- 4月25日 統一地方選挙
- 4月25・26日 つじ観賞会  
25日午前9時半より当山世話人故西澤義光氏つじ植栽の顕彰石碑の除幕式挙行。
- 4月27日 佐藤文勇氏ご逝去  
当山世話人佐藤文勇氏(佐藤養殖場(的矢かき)社長)ご逝去82歳。養育院勇和日住居士。心よりご冥福をお祈り致します。
- 5月1日 猿江稲荷大祭  
快晴の中、30余名にて恒例の猿江稲荷大祭法要が奉修されました(写真④)。法要後、錦糸町東武ホテル24階レストラン「廉」にて東京スカイツリーを眺望しながら昼食会となりました。
- 5月29日 日蓮門下連合会身延会議  
山梨県身延山久遠寺にて恒例の日蓮門下連合会理事會(身延会議)が開催されました。

**住職** 本日は皆さまお忙しい中ありがとうございます。『ガラスのうさぎ』出版から、かれこれ三十数年になりますが、高木さんとはお寺との深い縁がございますね。

**高木** 両親が熱心に信仰してまして、私が覚えているのは三吉日照上人の時からです。両親も私も日照上人が大好きでした。

**住職** 日照上人の孫にあたる私が、大学生の時に『ガラスのうさぎ』が大ヒットしました。映画も本も当然全部読ませていただきました。たくさんの方で聞かれていて重複するかも知れませんが、率直に『ガラスのうさぎ』出版の目的と原点を教えてください。

**高木** 戦争は、敵を撃つ、倒すというイメージが強くて、粗末にすることそのものです。そして、何も悪いことをしていない私の家族もまた、相手の命を奪ったことではないのに、命を落としました。仏教で考えても、命を粗末にする戦争は絶対にはいけないはずなんです。

終戦後も、周りの人は悲しむだけで口に出さない、出していないという風潮がありました。これではいけない、戦争の悲惨さや悲しさを、広めなければいけないの思いからでした。

**住職** そこで、お母様たちの三十三回忌に合わせて、自費の出版をされたんですね。



高木敏子氏と三吉廣明住職

**高木** この体験を伝えなければいけないという思いが、ずっと胸にひっかかっていたんです。三十三回忌の際のお返しを考えていた時、皆に相談をしました。反戦の内容を書くことで、家族や会社に迷惑をかけることも考えられましたので、旧姓の「江井敏子」を名乗りました。

**住職** 当宗では毎年、千鳥ヶ淵で戦没者の慰霊法要をさせていただいています。そこでの情報として、第二次世界大戦では、日本国内で310万人の犠牲者が出たと言われています。ただ、先の震災でもそうですが「関連死」を入れると犠牲者になった方は計り知れないわけです。やはり多くの命を奪う戦争はあってはなりません。

個人的には『ガラスのうさぎ』の中で、東京大空襲でもご存命であったお父様が、神奈川県・二宮駅で機銃掃射を受けて命を落とされてしまった時に、涙が抑えられませんでした。

**高木** 東京の大空襲後しばらく経ってから父と実家の現墨田区本所に戻りました。そこで溶けた「ガラスのうさぎ」を発見したのですが、その時、父が口にした「お前はガラス屋の娘だからわかるだろう、このくらいすごい空襲だったんだよ。お父さんと敏子は、仏さまのお陰で命があったんだよ」と言う言葉が忘れられません。つまりは、母や娘が亡く

なったことを認めなくては行けなくなった訳ですから。父も私よりもっと複雑で悲しい気持ちだったでしょう。

そんな父親の命も簡単に奪われてしまいましたが、辛いのはもちろん、やり場のない怒りがありました。

**住職** お父様が亡くなられて、火葬のために薪を集めている場面がありました。中学一年生という立場はもちろん、当時の物資等考えても、相当苦勞なされたのではないですか。

**高木** 強い友情のつながりが、子ども達にもあったのです。家から薪をこっそり持って来てくれた人もいたみたいです。友だち一人ひとりが近所の方に声を掛けてくれて集めてくれました。両親がちゃんと信仰してくれていたから、仏さまのおかげで関係ない方まで薪を集めてくれたのだと思います。本当にありがたかったです。

火葬が終わったら、父が打たれた弾が出てきました。頭の骨は硬いから、貫通せずに残っていたのです。床に投げつけようと思っただけ、持って帰りました。新聞紙二枚、半紙二枚でくるんで遺骨を持って帰りました。

納骨でこの妙壽寺に来た時に、日照上人が「もうどこへも行かなくていいよ、娘とも仲が良いのだし年も近いから着るものも一緒だろう」と言ってお下されたんです。あの言葉が有難くて。

**住職** 日照上人の「一つのものは二つにして二人で食べれば良いじゃないか」という言葉が特に印象的で忘れられないです。

**高木** あの時代にそんなこと言える人はいません。実際、この妙壽寺には下町で焼け出された人が他にもたくさん生活されていましたが、みんな私に大変だねと声を掛けてはくれましたが、席を外している時に「敏子ちゃん、配給証持ってきているんだらうか。もしなかったら私たちの食べるものまで減ってしまうわ」と言っているのが聞こえてしまいました。

それでも日照上人と奥様のご厚意に甘えて、2週間ほど住まわせてもらいましたが、その時に日照上人は「この戦争はもう長く続かないよ」と言っておられました。父が亡くなったのが8月5日、それで納骨に来たのが8日頃とかそれくらいでしたから、完全に見抜いてらっしゃいましたね。

**住職** 日照上人は、戦時中もお盆に来られた方へ、すいとんを振舞っていたと聞いています。現住職として、お盆、御会式のお弁当は今も続けているのですが、当時、たくさんの人を寺に泊めて、若い僧侶もたくさん随身して、どうやって食べ物などを調達していたのか想像もつかず不思議です。

**高木** ここから見ると庭のところは大きい木だけを残して、全部畑にしてみました。かぼちゃとかさつまいもを作っていましたよ。それにしたつてお寺は大変だったと思います

よ。当時は政府も戦争一色で、宗教家や出版方面も、それに反すればみんな警察に捕まっていたんです。

**住職** 戦時中の雰囲気は想像を絶するばかりですが、70年経って二度と戦争を繰り返さないために思うことをお話しただけですか。

**高木** 私はもう動けなくなっていました。本気で取材したいなら申し訳ないけど家まで（千葉県幕張市）来て欲しいというところになっています。日経新聞だったり、東京新聞だったり取材に来てくれました。ニュースにも取り上げてもらいました。

戦時中、私が神奈川県二宮町にいたのは僅か1年。私にとっては他人の方ばかりでしたが、当時はみなさんによく助けていただきました。それに、去年も二宮駅の像の前には折り鶴が12万羽、前の年は18万羽が集まりました。

私の行動が少しでもきつかけとなり、こういう思いを持ってくれる人たちを一人でも多く増やしたいです。

**住職** 適切な言葉がわかりませんが、いわゆる何も知らない「一般の人たち」が、高木さんの行動を知り、戦争反対と表明されていくということですね。そういうつながりをまだまだ増やしていきたい。

全国の講演は1600回以上されてきているということですが、講演での感想・手応え・あるいは残念だったことなどはありますか。

**高木** まずありがたいことに、お前の言っていることはおかしいというような手紙は一通もなかったことにはありません。一度だけ街宣車からスピーカー越しに「お前は非国民だ、討論しろ」と言われたことがありますが、あなたが「あなたたち、歳下なのだからそこから降りてきて、こちらへ歩いてらっしゃい」と言ったら、それまででした。

いろいろなことがありますが、とにかく嫌な思いをしたことは一度もないです。**住職** 時代背景もそうさせていたということもあるかも知れませんか。

家族のつながりというものも、戦中や戦後とはだいぶ変化してきているのは事実です。そんな中で高木さんは、日照上人との縁だけでなく、菩提寺を、ご先祖を大事にして尽くされていることは住職として有難く思っております。

**高木** 私が助かったのは、妙壽寺様のお陰です。**住職** お墓参りだったり、年忌の法要だったり、こういった思いでお参り下さるのでしようか。



**高木** まずはとにかく日照上人にお世話になったということ。それがなければ私の生命はありませんでした。なにせ13歳にしてその時はたった一人でしたから。手伝いのお坊さんと一緒に廊下の雑巾がけをしたり、お寺の手伝いをしながら2週間ほどお世話になりました。

その後、福島県の親戚の家に身を置かせてもらいました。両親の実家が新しく出来るまでのことでしたが、どうにも堪えられず帰ってきてしまいました。まだ家は出来ていなくて畳すら入っていませんでしたので、藁をひいて寝ていました。

そんなこともありまして、お寺で過ごせた時間というのは、感謝以外の何物でもないです。今日は家族についてきてもらったけれど、本当に良く聞いておいて欲しい。お寺さんに本当にお世話になっているから。

**住職** 同じ思いは当然ご先祖さまにもあるわけですよね。

**高木** もちろんです。ご先祖さまから大事な生命をいただいたわけで、私の場合は自分の生命そのものがお寺に助けられたと思っただけです。そうすると、生命を脅かした戦争そのものをどうにかなくさないと行けないという気持ちが芽生えました。でも、当時は戦争反対なんて誰も言わないですね、言えないんです。ただ家族の理解が得られたので、『ガラスのうさぎ』の出版に至ったわけです。

**住職** 大震災からも3年半経ちまして、よく「時葉」という言葉を耳にします。風化をさせてはいけない、悲しみが多いと立ち直れない。これらは、少し相反することであるようにも感じますが、戦争を経験されたお立場として、考え方を聞かせ下さいませ。

**高木** 「時葉」という言葉は私もよく講演で使わせていただきました。どんなに辛いことがあっても、時というものがだんだん和らげて

## Profile

## 高木敏子氏

戦争を知らない子ども達に、平和と命の尊さを知ってほしいという願いから著書『ガラスのうさぎ』を昭和52年12月8日(太平洋戦争開戦の日)に刊行。旧版や新版、文庫版などをあわせると、220万部を超えるベストセラーとして読み継がれている。また、英語やハンガリー語など10カ国で翻訳されており、加えて現在も他国語での翻訳が進められている。NHK銀河小説にTVドラマ化。また、アニメ映画としても制作上映された。

1932年6月19日生まれ

1978年 厚生省児童福祉文化奨励賞 受賞

全国学校図書館協議会課題図書に指定

1979年 日本ジャーナリスト会議奨励賞 受賞

2005年 エイボン女性大賞 受賞

てくれる。でも忘れてはいけないことがそこにはある。と私は解釈します。二宮の方々は父と同じ時に9名亡くなっています。それを忘れないためにも「平和と友情の碑」として碑を立てていただいたのです。

**住職** 私ども法華宗の教えは、非常にポジティブなものであると常日頃思っています。我々は生きていく中で、前向きでありながら忘れてはいけないものを踏まえなければいけないのだと思います。

二宮の方たちの行動というのは、他人かも知れませんが、正に高木さんの行動を見習っているのだと思います。反戦の表明も行って

**高木** 若い人たちがへしっさり歴史の教育などもしてほしいですね。そして、信念をもって生活して欲しいです。

また、70年に当たり多くのジャーナリストの方々が取材に来てくれました。特に、海外特派員クラブの英国人記者は、丁寧な日本語へ変換して下さり、とても嬉しかったです。

**住職** 宗派や寺院、僧侶でも構いませんが、私たちに出来る事はないでしょうか。

**高木** 民間の人たちともっと密接になってほしいと思います。宗派も超えて、対社会にメッセージを発信してほしい。それが若い人たちに仏教を通して生命のありがたさを伝えることになり。そして、命の尊さと大切さをみんなが語り合うようになってほしいと願っております。

**住職** 本日は多くの示唆に富むエピソードをお話いただきありがとうございました。私共もこれらのお教えたことを糧として精進して参りたいと思います。誠にありがとうございました。

(法華宗宗務院「無上道」無上道創刊八〇〇号特別企画「戦争体験を語る」より転載)